

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成27年1月)

～現状判断DIは上昇も、停滞感はいまだ拭えず～

- 景気ウォッチャー調査・1月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2か月連続で上昇したほか、先行き判断も2か月連続の上昇となった。
- 足元の状況については、年明けから雪に見舞われたものの、初売りは概ね好調に推移したほか、外国人観光客による消費の増加傾向も続くなど、明るい動きがみられた一方、円安による諸物価の上昇などで消費者の節約志向が強まっており、生活必需品を中心に厳しい動きがみられる。初売り後のクリアランスセールにもその影響が感じられる。
- 企業を取り巻く環境については、原油相場の低下による好影響が期待される一方、円安の進行による原材料コストの上昇が進んでおり、収益の悪化を懸念する声が増えている。
- 先行きは、原油相場の低下のほか、昨年並みの賃上げによるプラス効果が期待される一方、諸物価の上昇に対する懸念の声が増えている。また、円安の進行による企業収益の悪化懸念や、消費者の節約志向に対する懸念の声も依然として多い。

「クリアランスセール」関連のコメント(現状判断・家計関連)

良	百貨店(服飾品担当)	・都心立地の店舗は、広域からの集客がどんどん増えている。また、インバウンド客の増加も来客増の大きな要因となっている。1月は百貨店にとってセール月であるが、今年は定価品の売上が良い。季節や気温に関係なく、新商品を投入すれば早い反応がみられる。
やや良	百貨店(外商担当)	・年明けのクリアランスは、気温の低下もあり好調に推移している。高額な宝石や海外ブランド品についても動きが出てきている。
変わらない	一般小売店[衣服](経営者)	・新年のセールに期待したものの、販売量、来客数共に昨年よりも少し落ちている。消費者の購入先がインターネットも含めて大きく広がった影響もあるが、客1人当たりの購入数や購入金額が落ちている。消費者の買物はよりシビアになっている。
	百貨店(売場主任)	・今月は福袋などの初売りは好調であったものの、目標は未達の見通しである。前年は消費税増税前で、スーツやコートの重衣料の売上が好調であったが、今月中盤以降はその反動が顕著になってきている。インバウンド客の需要は好調に推移しているが、国内需要は厳しい状況にある。客はバーゲンでも、価値のある商品でなければ購入しない傾向が強くなっている。
	百貨店(企画担当)	・正月の福袋など、入っている物が分からない商品の購入が減っている。一方、クリアランスの売上は好調である。
	百貨店(商品担当)	・1月は正月休みが前年よりも1日少なく、雪の影響もあったため、特に郊外店は厳しいスタートとなった。また、ファッション商材の冬物セールに勢いがなく、従来のような福袋と値下げによるスタートダッシュが切れていない。
	百貨店(売場マネージャー)	・消費は悪い状態が続いている。回復の大きなきっかけがないことが、主な理由として考えられる。一方、ギフトの解体や再値下げのセールといった底値企画のほか、量販品の売場には反応がある。
	スーパー(店長)	・正月関連で必要な商品だけが堅調に動いており、全体的には節約志向が続いている。食品以外のバーゲンも低調で、衝動買いも極めて少ない。
なや悪く	一般小売店[精肉](管理担当)	・正月ムードが終わり、学校が始まると通常のおかずの購入も減っている。特に、成人の日の三連休が終わってからは、週末の盛り上がりも少ない。その割に牛肉の相場は年末と同じ水準で推移しており、セールもかけにくい状態である。
	百貨店(売場主任)	・降雪による初売りの売上や来客数の減少を取り戻すことなく、1月が終了した。セールも以前に比べるとまとめ買いが少なく、必要な物だけを購入する傾向がみられる。インバウンド客向けの売上は前年の3倍で推移し、全館売上の約3%にまで増加したほか、富裕層を中心とした高額品や目新しい商材の動きも良いが、全体的には消費は鈍化している。
	百貨店(販促担当)	・クリアランスが始まり、衣料品が苦戦しているほか、重衣料も低調で、客単価は下がっている。月後半は季節需要が中心となるが、定価品の動きは前年並みである。一方、食品や雑貨、高額品は堅調に推移している。
	百貨店(売場マネージャー)	・1月のセールの立ち上がりなど、月初めは順調にスタートしたが、その後は入店客数が中だるみとなっている。入店客数は盛り上がり欠けた昨年と比べても減少が続いており、1月に入って更に3%ほど悪化している。前年の売上は、海外高額品の値上げや消費税増税前の駆け込み需要などで伸びたため、いまだに取り戻すまでには至っていない。
な悪く	百貨店(売場主任)	・初売りの1月2～3日は、積雪で来客数に影響が出たことはやむを得ないが、その後のバーゲンセールでも婦人衣料を中心に売上が伸びていない。今年のような厳冬の年には、防寒具がもっと動くはずであるが、消費者の財布のひもは固い。
	百貨店(売場マネージャー)	・1月のバーゲンの時期となったが、来客数は前年比で2けた減とかなり厳しい状況である。さらに、来店客の購買意欲も低く、客単価も低下している。昨様が消費税増税前で堅調に推移していたことを除いても、例年よりも更に10%近く悪化している。

※「良」・・・良くなっている。「やや良」・・・やや良くなっている。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 13												14												15
		月 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
現 状 判 断	近畿	53.2	56.8	61.3	59.6	58.7	54.9	53.2	51.4	54.6	52.8	55.8	56.1	55.6	56.3	60.8	43.6	45.9	47.9	51.4	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6	47.8
	(全国)	49.5	53.2	57.3	56.5	55.7	53.0	52.3	51.2	52.8	51.8	53.5	55.7	54.7	53.0	57.9	41.6	45.1	47.7	51.3	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2	45.6
先 行 き 判 断	近畿	59.8	61.2	60.7	59.6	58.1	53.5	52.9	52.3	55.9	57.7	58.5	57.3	49.9	42.0	36.0	51.4	54.1	54.5	51.9	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6	51.6
	(全国)	56.5	57.7	57.5	57.8	56.2	53.6	53.6	51.2	54.2	54.5	54.8	54.7	49.0	40.0	34.7	50.3	53.8	53.3	51.5	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7	50.0